

るために、財政問題について、主として国庫支出金、都支出金の獲得について最初にお尋ねをいたします。

昭和五十四年度の国の地方財政計画によれば、総額三十八兆八千四百億円であり、このうち国庫支出金として十兆九千四百億円が地方公共団体に交付されるということでございます。これを受けまして、当市も本年度予算に国庫支出金十九億一千四百八十六万九千円が計上されておるわけでございます。また、都支出金として当初予算に三億三千三百一十四万四千円の計上でございます。

さて、今回私が取り上げました質問点は、国庫支出金及び都支出金が国からあるいは都からどのように配分されているかということでございます。昭和五十三年度版の都市統計の昭和五十三年度当初予算によりますと、国庫支出金においては基地を抱えている当市、あるいは隣の昭島市、立川市はその迷惑料を獲得すべく、理事者、議会が一体となって防衛予算に向かっているため、当然、多額の国庫支出金を獲得しているのはわかるのでございますが、八王子市、青梅市、田無市、多摩市の四市は防衛施設とは直接関係がないのに、当福生市に比べて余り遜色がないのはなぜなのか。これが第一点でございます。

また、都支出金においては、人口一人当たりの額を算出してみますと、当市の市民一人当たり八千六百円に対して、多摩市の二万三千三百円を筆頭に、当市は二十六市中下から五番目であるのはなぜなのだろうか。適切な答弁を求めるものでございます。

次に、五十三年十月に実施した世論調査についてお尋ねいたします。

福生市の全体評価としては、比較的よい評価を得られたようでございますが、地域によって評価が分かれております。道路環境、公害、公園、子供の遊び場、近所づきあい等に不満があらわれておるようですが、市長はこの世論調査の結果をどのように受けとめているのか。また、これからの行政にどのように反映させるつもりなのか、答弁を求めるものでございます。

最後に住居表示についてお尋ねいたします。

昭和五十一年九月議会において、鈴木議員が本件につき一般質問に立ち、三年以上の歳月が流れたのでございますが、そのとき理事者は、この問題について検討を加えてまいりたいという考え方であると答弁されておりますが、未実施地域を対象にいつごろ実施する考えなのか、答弁を求めまして、私の一般質問といたします。

(市長 石川常太郎君登壇)

○市長(石川常太郎君) 御答弁申し上げます。

一点でございますが、五十四年を見ますと、国庫支出金は市民一人当たりにはいたしませんと、群を抜いて福生がよろしゅうございます。それから都の関係でございますが、都におきましては五十四年度は福生市は二十六市中多い方から七番目でございます。国の方は群を抜いてよろしゅうございます。福生市より都の支出金の多いというところは学校の建設が非常に多かったということ、それから都市計画道路を市の予算に載せたということ、その二点でございます。

きのうも貫井先生の御質問がございまして、これからなるべく市役所にいるようにお約束申し上げたわけでございますけれども、運動しないということではないのでございます。実はきのうもお答え申し上げましたけれども、K P C P についての事業はビークに達しました。と判断しております。K P C P の事業は政令を改正するものが非常に多ございまして、政令の改正に非常に暇がかかるわけでございます。非常に折衝が多くなりまして、その関係で非常に時間をつぶしたわけでございます。きのうは少々言葉が足りなかったようでございますけれども、K P C P 以外の

ものでございまして、中には法律あるいは政令の改正をしたもの、これはできるものがあればよろしゅうございますけれども、なかなかそうもまいりませんので、なるべく役所にいられるようにというようなことは、そんなような意味でございしますので、御明察のほどをいただきたいと思います。今後とも国、並びに都の支出金に

つきましては、他市に負けませんように努力をいたしたいと思っておりますが、何といたしまして、議会総がかりのバックアップがありませんと両方ともできませんので、ますますの御後援と御指導を賜るようお願いを申し上げます。次第でございします。

世論調査の結果でございしますが、指摘のようなことでございしますが、事業方面につきましてはこの十月ごろまで、十一月にはかからないと思っておりますが、十月ごろまでには基本構想を受けました三カ年の実施計画を作成し、十月末ごろまでには実施計画が完成すると思っておりますが、その中に盛り込みたいと思っております。

しかし、この世論調査につきまして、私が一番関心を持っておりますのは、事業よりもむしろ今後におけるコミュニティの形成が大事であるということ、私は一番重大なものであると思っております。議会の御良識で会館等も徐々にできておりますが、今後ともコミュニティの形成に向かって進みたいと思ふ次第でございします。

その手段といたしました。いま教育委員会におきましても、大いに社会教育の充実にばく進をしておりますが、この社会教育のますますの充実ということが一つの手ばかりになるのではないかと、そのような一つの楽しみを私は持っている次第でございます。東京都のママさんバレーにおきましても、大きな市においても一つのチームしか出ないが、福生市においては五つのチームが参加するということで、大変に私はうれしいと思っております。また、せっかくの日曜日には先生方もおいでになりましたけれども、主婦と老人の運動会がございましたが、四百人近いような参加がございまして、非常にこのコミュニティの形成はいいことだと思っております。そういうようなことの充実というものが、この世論調査の中によくあらわれているような気がいたしました。うれしく存している次第でございます。何とぞよろしく事業面におきましては先ほど申し上げましたとおりでございますが、そういう面におきましてのお力をぜひいただきたいと思う次第でございます。

次に住居表示に移らせていただきますと思いますが、実は何回か住居表示の御質問をいただきました。現在まで、加美平の区画整理が完成したならばというようなことを申し上げたわけでございますが、大変おくれまして申しわけないんでございます。

が、いよいよ加美平も完了いたしますので、私の希望といたしましては、五十五年度の予算に幾分か、調査費も計上させていただきまして、市制十五周年の昭和六十年に完成するようにもっていきたいというふうな考え方でございます。

ここにまた他日、日を改めまして全員協議会にこの点についてお諮りを申し上げます。先生方の御意見を承りたいと思っておりますが、実は法律に定められました住居表示をそのままするか、あるいは地方自治法にございます市町村内の町又は字の区域の変更の法律を適用していくか、その二者選択、どちらにするかということが問題でございます。私は地方自治法の町名字の変更の法律を適用した方がよろしいのではないかと考えております。そういったしますと、当然町名変更の審議会もおつくりいただかなければならない。つくるからには条例もおつくりいただかなければならないと思っております。そこで十二月、遅くとも、最も遅くとも来年の三月には町名字名変更の、あるいは地番変更の審議会をおつくりいただくような段取りにしたらいかなものかというふうに、現在のところ考えている次第でございます。区画整理地区を除きますと、該当面積は四平方キロメートルでございますので、昭和五十五年からいたしますと、一年間に一平方キロメートルといたしますと、市制十五周年記念には

間に合うわけでございます。コンサルタントに委託した場合、大体一平方キロメートル一千万円少々でできる予定でございます。

そのようなことでございますので、どうぞひとつ改めて御相談を申し上げ、お知恵を拝借する予定でございますけれども、普通の住居表示にするか、地方自治法の二百六十条にするか、その点をひとつあらかじめ念頭に置いていただければ、きわめて幸せと存する次第でございます。

それから一つ訂正をさせていただきたいと思っております。

先ほど大変な失礼を申し上げまして、都の支出金が七位と申し上げましたけれども、幾つかございまして、十三番目と御訂正いただきたいと思います。実は七位というのは住民一人当たり大体九千円でございます。九千円くらいと思っております。私もは住民一人当たり七千円でございます。十三位でございます。その上の小平等が九千円のランクでございます。ですからランクは違いましたも、そうそう大きな違いはないのではないかと思います。うふうに思っております。

おわび申し上げます、訂正させていただきます。

以上のようなわけでございまして、大変に難儀でございます。至らぬところが

ありましたら、ぜひまた御質問いただきまして、私の不明のところは、専門の部課長より答弁をさせていただきます。

以上でございます。

○七番(森田治男君) 打ち合わせが余りよくなかったようで、資料について私の申し上げているのと市長の答弁と若干食い違いがございまして、私の不勉強を突かれたようなことで非常に痛いんですけれども、私が申し上げましたのは、昭和五十三年度のこの都市統計によると、私はこれについて質問をさせていただきますというように、通告が終わりましたから、あらかじめお話し申し上げたつもりでございまして、私の不勉強のところは、これから質問を申し上げてお聞きするとして、差し当たって私の集めた資料によりまして御質問を申し上げてみたいというふうに考えておりますので、よろしく御理解をいただきたいと思っております。

最初の国庫支出金でございすけれども、市長の答弁によりますと、五十四年度においては大変いいんだというふうなお話でございすすが、私が拝見しました五十三年度によりますと、当然、福生は、先ほど申し上げましたように、防衛施設を抱えている立川、並びに昭島ともども大変多額の支出金を獲得しているということ、大

変結構でございます。

しかし問題点として、私が申し上げました八王子並びに青梅、田無、多摩、こういうところについてはなぜ多いのかということをお聞きしたかったわけですが、いま一度先ほどの答弁によりますと都市計画があるからというふうなお話のようでございませうけれども、私の目に映る他市については多摩市はともかく、さほど大きな計画はないのではないかというふうにも考えておりますので、ひとつ最初の質問に戻りますけれども、お答えをちょうだいしたいと思います。

それから同じく都の支出金でございしますけれども、五十四年度においてちょうど真ん中というような訂正の発言もございましたけれども、五十三年度の都市統計によりますと、都の支出金は私も福生市の市民一人当たり四万八千人で割りますと八千六百円ということでございますが、登壇して申し上げましたように、他市においては二万三百円と、かなりの開きがあるようでございします。さらに立川市あたりもろいのですね、一万三千二百円、一万円台を超しているところが十市以上あるようです。こういうことはどういふわけなのかということをお聞きして御質問申し上げたわけですが、市長は五十四年度の事を私が答弁にかえたようでございしますけれども、五十三年度

をひとつ基準にお話をいただきましたと、さらにできましたら五十四年度ではこういうふうに状況が変わったということをお知らせして御説明いたしたいと思います。

それから世論調査でございますが、ちょうど私もここで選挙がございまして、いろいろな意見を、世論調査以上に直接的な意見を大変拝聴いたしました次第でございしますけれども、その中で特に私が感じましたことで、先ほど取り上げました住居表示のことともそうだったのでございますけれども、市長さんとの話し合いというものを大変望んでいる方が多い。先ほどコミュニティの場を使ってこれからいろいろとやるのだというお考えを示されましたけれども、この世論調査の中でもはきりされているように、市政に対する世論調査、それと同時に市長との懇談会、対話集会を望むような声があるというふうな指摘があるようでございします。そこいらへんについて市長はどのようにお考えですか、お答えをいただきたいと思います。

三番目の住居表示でございしますけれども、市制十五周年に照準をあわせて住居表示を行いたいというふうな御答弁でございしますが、できることならば、十五周年までいかずに、二〇二二、三年でひとつできないものか、十五周年という区切りをつけた根拠を御説明いただきたいと思います。なせ二、三年でできないのか。

以上再質問いたします。

○市長(石川常太郎君) 先ほどの都の方の支出金のお話でございますが、私は、学校都市計画道路、そういうように伺っております。

振興交付金としては、福生は抜群に多いわけでございまして、都の方をお調べいただきますと思います。間違ございません。

それから地元との対話でございますか、価値があるものならよろしゅうございます。価値があるかどうかという問題でございますが、これは考えてみます。美濃部さん対話をぜひふんじましたけれども、私は価値はないと思います。私より先生方のお話の方がよっぽど価値があるのではないかと考えております。

住居表示でございしますが、一平方キロメートル一年でやるというのが大体常識のようでございます。十五平方キロメートルあるところは大体十五年かかっているようでございます。十五年というところで決まったわけではないのでございしますが、十五周年で切ったわけではないのですが、昭和五十五年度から始めますので、大体昭和六十年になるのではないかと、昭和六十年は十五周年と、こういうことでございします。大体世間の常識に沿った線ということでございしますので、そのように御理

解いただきたいと思ひます。

○企画財政部長(浅見裕康君) 第一点の關係につきまして、若干補足させていただきたいと思ひます。

確かに御指摘のとおり、いまの各市の補助金關係は金額的には非常に大きな数字になっております。市長が申し上げましたように、学校、いわゆる人口急増等に伴います学校建設は、八王子が最たるものでございまして、例年相当の学校をつくっているということでございします。これは御案内のとおり、人口急増対象になりますと、補助率も非常に大きい。したがしまして、これは国の補助と、不足するということで補足する意味で都が補助を出しているというようなシステムになっております。文部省補助の基準が非常に低いということで、その補てんのために都が見ているということでございします。

話題になりました田無など非常に大きいということにつきましては、市街地再開発事業を駅周辺で行っております。これは国の建設省都市局の関連の補助金になりますが、三分の二という基本事業費に対応する三分の一という補助率になっております。これは全国的な規模で一応国の予算を見ますと非常

に大きいわけではございませんけれども、非常に事業がむずかしさ、そういうものがございまして、消化が非常に悪いという意味で、消化が計画どおりいったところにつき、ましては、非常に手厚い補助がもらえるということ、ちなみに五十三年の田無の市街地再開発事業、これの国の補助金として四億二千四百万円というような数字が出ております。それから、国庫補助につきましては、都市開発事業、これの三分の二の基本事業費に対する三分の二の補助がきています。

これはうちの方の場合は、できるだけ市の財政に影響しないような形で、都に施行を依頼しているというような、歴史的な経過がございまして、それからもう一点、区画整理事業を、これもやはり国費導入をせずに、都の交付金をもらうことにより、公社に委託していると。したがって、市の予算には反映されてこないというところが一点ございまして。

非常に手法、その他が違ふこと、あるいは国費をもらうことによって、また六分の一なりを都が義務的に補助しなければならないという法律的な基準がございまして、そういう関連によりまして、先ほど御指摘をいただきました各市の補助が、福生市、あるいはそれ以上というような見方がされるような、計数的な数値が上がっ

ているというような事情でございまして。

いずれにいたしましても、福生市といたしましては、御指摘がございまして、非常に零細な財源、そういった財政力といったものを踏まえまして、今後、国庫支出金ないし都の支出金の獲得には、さらに一層の努力を図っていきたいと考えております。

非常に雑駁でございましたけれども、いま御指摘をいただきました点につきまして、市長答弁の補足にかえさせていただきます。

何とぞよろしく願ひいたします。

○議長(小林菊三君) 十一時まで休憩いたします。

午前十時五十分 休憩

午前十一時三分 開議

○議長(小林菊三君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

○七番(森田治男君) 最初に財政問題につきましては、もう一度詳しくお聞きしたいと思っておりますので、よろしく願ひいたします。

国庫支出金並びに都の支出金、私が結論的に申し上げたいことは、福生市の場合、国庫支出金については防衛施設庁から多額の補助金がつくということで、相当額の国庫支出金が得られるということは、私が申し上げるまでもございません。質問としては、青梅、多摩、田無と、要するに市民一人当たりの額にしてほとんど変わらないくらいの額の国庫支出金が、私ども福生市のみならず他の市にもいつている。もちろん日本全体、市民だれもがよくなるてはならないのですけれども、私ども福生市にしてみれば、議会、市町村も一体となつて防衛庁にはせ参じて、その結果として、私どもは防衛施設庁から多額の補助金を獲得しているんだと、迷惑料としてたくさんいただいているんだという考え方が、この五十三年度の資料統計を人口一人当たりの数で割ってみると、何だ八王子も青梅も結構ほかのことできているのではないかと、というような指摘をしたいわけです。その辺の考え方、私どもはもともと、うていいんじゃないかというような考え方でございます。ひとつ端的で結構ですから、御答弁いただきます、と思います。

それとそれに関連して、都の支出金については福生の場合、真ん中辺以下ですね、これは真ん中以下です。これは考え方の中に、東京都において、福生市は防衛が

う補助が出るから幾つかいいんじゃないかというような考え方がありはしないかということをお聞きしたいわけです。いかがでしょう。

それから世論調査の件に移りますが、これは市長から価値感の違いというところでございまして、私はやった方がいいというふうに、あるいはまた世論調査でも望んでいる方がおられるということ、どうかというふうに申し上げたつもりですけれども、価値感が違ふとなれば、やはりこれはこの程度にとめておきましょうか。

それと世論調査の中に、全体的な考え方として、未来、未来と言いますが、将来の福生市に対する願望というようなものも、世論調査の報告書の中から私は受けとめたんですけれども、地域によって確かに行政に対する不満が特に道路、排水などに挙がられると思いますけれども、全体的な考え方といえますか、こうあってほしいというような希望的な市民の声か、福生市について、あるいは地域についての声か、私には出ていって判断をいたしておるわけでございますけれども、考え方としては大変崇高な考え方が、この世論調査の中に出ていっているというふうに感じております。いわゆる十年先、あるいは二十年先の市のあり方とか、そういうふうなところまでを考えさせられるような住環境ですか、生活環境というものを考えているような世論調査の結果

果が出てくるように考えておるわけですが、これについても十月末に実施計画が出されて、その中に市民の皆さんの要求といいますが、その結果を盛り込むというようなお話でございますので、一応この件につきましては、十分鋭意研究されて、やっていただきたいと思います。

ただ一つだけ、地域の中で私道に関係のところでございますが、選挙がございまして、私もかなり細かいところまで回ってみましたけれども、道路には市道であるとか、私道というような表示がないのが普通でして、行ってみて非常にわかりづらいわけですから、かなりの道路でありながら未舗装であるとか、側溝もないというようなところが市内に相当数あるわけです。そういう御近所の方は、車を持っていますと必ず道路を何とかしてほしいと、これは私に限らず今回選出された方々、みんな同じ考え方を持っているのではないかと 생각합니다。そうした中で、どうもこの道は通り抜けできないから舗装がまだとか、あるいは側溝がまだなんだというような返事が返ってきていたわけでございますが、そういう状況も、この地域性の中で私は出ているんじゃないかと思っております。

私道に関しては、毎回のよう一般質問でその論議を呼んでおるようでございます。

すけれども、特に今回、私どもは選挙という一つの試練を通り越してまいりましたので、なおさら、大ぜいの市民がもう少し見直しをしたらいんじゃないかということをおっしゃいますし、私も現にそう思いますので、この世論調査にひっかけまして、私道の考え方といえますか、ひとつ答弁をちょうだいしたいと思っております。見直しの必要があると思っておりますか、いかがでしょうか。

最後の住居表示でございますけれども、鋭意努力されて、ひとつなるべく早い時期に表示方をお願いいたしまして、本件につきましては、この程度にとどめさせていただきます。

○市長(石川常太郎君)　よき様でございますので、私が内容をとにかく申し上げるは大変失礼なことでございますので、推量でございますが、青梅の多いということは恐らく病院だと思えます。他はほとんど病院でございます。福生は防衛の補助があるから都の補助が少なくなるというのはございしません。絶対にございしません。ほとんど学校と思えます。国庫は防衛と限りませんので、ほかにもございします。恐らく文部省とか厚生省とか、そういう関係のもうだと思っておりますので、断定はできませんけれども、文部省、厚生省、建設省もございします。その関

係の補助がこの辺になっていると思います。防衛があるから東京都は減るということとは絶対にございませんで、その点は御了承いただきだと思います。

東京都が多いのは学校関係、全部新しく学校をつくっております。福生は学校をつくりませんでしたけれども、今度学校をつくる時には都の補助も多くなり、ますので、御心配ないと思います。

他の件につきましては、担当から御答弁申し上げます。

○建設部長(斉藤多市君) 御指摘の私道の整備の関係でございしますが、御承知のように、私道整備に関する規則の中で、現在その物差しの範囲内で行っているわけでございますが、御指摘のように、市内にはまだ多数の私道——通り抜けております私道も相当あるわけでございまして、それらにつきましては、当然権利がふくそうして通り抜けるできないというのが相当数あるわけでございします。先般の一般質問の中でも申し上げましたように、今後これらにつきましては積極的になさるべく通問のなかでも申し上げましたように、今後これらにつきましては、積極的に、私道リ抜けできるものについては措置する。その他どうしてもできないものについては、私道の敷正備の中で舗装をしていくような考え方をもちて進みたいと思ひます。

○七番(木村治男君) 最後、要望申し上げますと思ひます。どうもかみ合

いせんね。最後までかみ合わずに終わりそうですので、かみ合わなければかみ合わないなりに、私も一方通行で申し上げます。

国庫支出金でございしますけれども、十兆円あるわけですよ、文部省からも建設省からも厚生省からも私どもの市にも来ているわけですね。同じだと思ひ、それなのになぜということが一つ出るわけです。学校とおっしゃいましたけれども、またゆくり、これは正式の場でなく、お話しもしてみたいと思ひますけれども、いずれにしても私ども福生市にとつては、防衛の予算がなければ、防衛の予算もこの中に当然その額は少ないですけどあるわけですけども、各市ともしのぎを削って、この国庫支出金の獲得に当たっているのが現況ではないかと思ひます。また、そのような意味合いか、今後とも私ども施設を抱えている市町村としての陳情はもとより、他の人口急増の指定を受けられて、これからまたその面でいろいろと勉強をされる面も出てくると思ひますけれども、ひとつ見落しのないようにしていただきたいということを申し上げたいわけです。文部省からも建設省からも厚生省からも、ほかの市には行っているでしょう。私どもにも来ていないということではないわけです。全部が来ているわけですから、にもかかわらず、少し額が少なくありませんかという指摘をいたしたいわけです。